


第 25 回一建設業経理士 1 級試験

直前期に見ておくと良い過去問
(過去問は公式サイトよりダウンロードして下さい)

<財務諸表>

第 20 回 4 問 デリバティブ

その他	10,000	9,910
金利スワップ		100



<考え方 (税効果抜き) >

その他有価証券評価差額金 90 / その他有価証券 90 (原則: 全部純資産)

金利スワップ 100 / スワップ評価損益 100 (原則: 時価評価)

<繰延ヘッジ> 評価損益を PL にのせない

その他有価証券評価差額金 54 / その他有価証券 90

繰延税金資産 36

金利スワップ 100 / 繰延ヘッジ損益 60

繰延税金負債 40

<時価ヘッジ> 評価損益を PL にのせる

有価証券評価損益 90 / その他有価証券 90

繰延税金資産 36 / 法人税等調整額

金利スワップ 100 / スワップ評価損益 100

法人税等調整額 40 / 繰延税金負債 40

いずれも
ヘッジ手段 (金利スワップ)
とヘッジ対象 (有価証券) を
同一評価とする

<財務分析>

第24回4問 CVP分析(難問)

難しい問題ですね。安全余裕率の定義が2種類あるようです(建設業会計概説より)

$$\textcircled{1} \text{安全余裕率} = (\text{売上高} - \text{損益分岐点売上高}) / \text{売上高}$$

こちらは一般的なパターンですね

$$\textcircled{2} \text{安全余裕率} = \text{売上高} / \text{損益分岐点売上高}$$

こちらは、損益分岐点の何倍の売上高があがっているかを表す方式になります

何となくイメージできますね。次回以降出題の場合はこれも押さえておきましょう。

(日商1級・全経上級・診断士も含めてはじめてみた式です)

$$\text{問1} \rightarrow 28,644,000 / \text{損益分岐点売上高} = 108.5\% \quad \therefore \text{BEP} = 26,400,000$$

問2→資本回収点(変動的資本と固定的資本がわかれば後は普通の計算式)

$$\text{総資本回転率} 1.2 \text{回より総資本} = 23,870,000$$

$$\text{変動資本} = 17,902,500 \quad \text{固定資本} = 5,967,500$$

$$\text{資本回収点} \rightarrow X - X * 17,902,500 / 28,644,000 - 5,967,500 = 0 \quad \therefore X = 115,913,333.333$$

$$\text{問3} \rightarrow 26,400,000 - 26,400,000 * X\% - 9,240,000 = 0 \quad \therefore X = 65\%$$

$$\therefore \text{変動費} = 28,644,000 * 0.65 = 18,618,600$$

$$\text{問4} \rightarrow X - 0.65X - 9,240,000 = 1,050,000 \quad X = 29,400,000$$

$$\text{問5} \rightarrow X - 0.65X - 9,700,000 = 0.1X \quad \therefore X = 38,800,000$$

<原価計算>

第20回3問 工事進行基準 (逆算問題)

請負額 60,000

①累計売上	18,000	36,000	48,000	60,000
②当期売上	18,000	18,000	12,000	12,000
③当期原価	15,600	15,900	10,500	11,000
④累計原価	15,600	31,500	42,000	53,000
⑤進捗率	30%	60%	80%	100%

進捗率 = 累計原価 / 見込原価 → 見込原価 = 累計原価 ÷ 進捗率

⑥見込総原価 = 52,000 52,500 52,500

期末見込 = 36,400 21,000 10,500 (解答)

(⑥ - ④)

平成31年3月9日(土) 19:30~
直前SP



平成31年3月10日(日) 19:00~
お疲れ様会

